

まきは

「水が聖所から」

「川のほとり、その両岸には、あらゆる果樹が成長し、その葉は枯れず、絶えず月ごとに新しい実をつける。水が聖所から流れ出ているからである。実は食用となり、葉は薬用となる。」

(エゼキエル書 第47章12節・旧約聖書1355頁)

はじめに

エゼキエルの預言は、失望のどん底にあって、孤独と迫害に耐え、試練の日々を過ごしていた民たちに対する神の憐れみ、希望の言葉に溢れています。ところが、それを受け取ることができないほど、民たちはかたくなになっていました。エゼキエルは、私たちに、神からの励ましの言葉を聞いているか、神の憐れみ、恵みを受け取っているか、そして良い牧者である神のもとに養われているかと、問いかけてきました。私たちがこの言葉をしっかりと受け止めていかならば、今後起こることが書かれているヨハネの黙示録とも深く関わっている、この47章の出来事が、私たちに与えられる約束としてもたらされることを確認しましょう。

新しい都

エゼキエルは、幻の中で新しい神殿を内見する恵みを得ました。そこに神の栄光がもたらされ、神の民イスラエルの回復、そして私たちのなえた信仰が回復させられていく約束が伴っていました。同じく幻によって、この新しいエルサレムを見たのがヨハネです。ヨハネはそこで「見よ、神の幕屋が人と共にあり、神が人と共に住み、人は神の民となる。神自ら人と共にいて、その神となり、目から涙をことごとく拭い去ってくださる。もはや死もなく、悲しみも嘆きも痛みもない。最初のものが過ぎ去ったからである。」(黙示録21:3～4)との声を聞きました。主イエスを信じる者にこのことは起こり、そして近い将来、完全な私たちで、このことが実現

していく、それが私たち、神の御手に自分の人生を委ねた者への約束です。

聖所から流れる水

主イエスは、「私が与える水を飲む者は決して渇かない。その人の内で泉となり、永遠の命に至る水が湧き出る」(ヨハネ4:14)とされました。これがエゼキエルが見た、神殿から流れ出る水です。ヨハネは「神と子羊の玉座から流れ出る光り輝く命の水の川」(黙示録22:1)と表現しています。約束が実現していく様子がわかります。私たちが神と共に生きるとき、私たちの内に泉となって、日ごと、夜すがら、喜びの時も苦難の時にも、神殿からの命の水が流れ入ってくるのです。

もたらされる実

その水がもたらすものは何でしょう。「あらゆる果樹が成長し、葉は枯れず、月ごとに新しい実をつける。実は食用となり、葉は薬用となる」。ヨハネは「両岸に命の木があって、年に十二回実を結び、毎月実らせる。その木の葉は諸国の民の病を癒やす」(22:2)と記しています。命の木とは、あのエデンの園にあった木です。完全な神との交わりの回復、そしてそれに伴う養い、癒し。神はエゼキエルに見せた回復を、主イエスを通して私たちに実現させてくださいました。しかも、毎月新しい実が結ぶようにして、今月も手にすることができるようにしてくださったのです。

【礼拝説教はスマホでも視聴できます】
右記のQRコードを読み取ってアクセスしてください。



今週の祈り

「私は自分の群れを養い、彼らを伏させる―主なる神の仰せ。私は失われたものを捜し求め、散らされたものを連れ戻し、傷ついたものを包み、病めるものを力づける。しかし私は肥えたものと強いものを減ぼす。私は公正をもって群れを養うこうして、私が主、彼らと共にいる彼らの神であり、彼らがわが民イスラエルの家であることを、彼らは知るようになる―主なる神の仰せ。…あなたがたは私の群れ、私の牧草地の群れである。あなたがたは人間であり、私はあなたがたの神である―主なる神の仰せ。」(エゼキエ



ル書 34:15、16、30、31)

私はこの世の流れに巻き込まれ、抜け出せていません。周りの生き方に影響を受け、自分がどう生きていけば良いのかもわからなくなっています。それはエゼキエルが言っている「悪い牧者」のためなのだと知りました。そのような私を憐れみ、迷う私を救い出し、傷ついた心を癒やし、草目、また養ってくださる「良い牧者」がおられるのだともう一度教えられました。神さまあなたが私の牧者です。私に安心を与えてください。御名によってお祈りいたします。アーメン。

深読みにチャレンジ!

箴言 (45) 第3章4節

*三つの違う訳を読み比べてみましょう。

◎協会共同訳 「あなたは神と人の前に 好意と良い成果を得る。」

◎口語訳 「そうすれば、あなたは神と人との前に 恵みと、誉とを得る。」

◎新改訳 「神と人との前に好意と聡明を得よ。」

「良い結果」

「心を尽くし、魂を尽くし、思いを尽くして、あなたの神である主を愛しなさい」。神の民イスラエルだけではなく、当然、私たちにとっても大切な戒め「シェマー(聞け)」は、主イエスも最も大切な戒めとして示しておられます。父の同じ思いで子に教えたのだと思います。ですから、実際に身に着けさせるくらい、心に刻んでおくことが進められました。

それによって「神と人の前に」「好意と良い結果」を得るからです。

神の前において祝福をいただくのは私たちの求める所ではありますが、人に対しても「行為と良い結果」が与えられることは、信仰生活においても大切なことです。せっかく信仰を持って、対人関係においてうまくいかないことは残念です。人間関係を築くことが難しい今の時代だからこそ、重要なことだと思います。

次第に信徒が増え、共同生活をしていた初代

【神からの知恵によって生きる】

箴言はソロモンが語った知恵の言葉を中心に構成されています。31章から構成されていますが、あたかも短編を読んでいるかのように、種々雑多な知恵の言葉が連なっています。ソロモンが思いつくままに語った言葉を、そのまま筆記したのではないかと思えるほどです。

この書このような性格上、まとめて解説するのが難しいため、この欄で、一つ一つの言葉をじっくり味わいたいと思います。箴言から得る知恵によって、深みのある生き方を学び、よりよい人間関係を築かせていただきたいと思います。

- 1 父から子へ・受け継がれるべき知恵(1:1～9:18)
- 2 生活の処方箋・知っておくべき知恵(10:1～22:16)
- 3 先人からの知恵(22:17～31:31)
 - a 知恵ある人の言葉(22:17～24:34)
 - b ソロモンの言葉(25:1～29:27)
 - c アゲルの言葉(30:1～33)
 - d レムエルの言葉(31:1～31)

教会では日常生活の世話に追われることになり、12弟子は仕事を他の弟子に任せることになりました。その時、参考規準になったのが、「霊と知恵に満ちた評判の良い人」でした(使徒6:3)。パウロはテモテへのアドバイスの中で、指導者に立たせるならば「教会の外の人々からも良い評判を得ている人」を選べ(テモテ2:7)と記しているように、重要な条件になっています。

他ならぬ主イエスも、「神と人ともに愛され」(ルカ2:52・口語訳)で成長していきまされたので、シェマーを実践されていたのでしょうか。

聖書日課

毎朝、決められた時間に聖書を読み、お祈りをするのはクリスチャンの生命線です。この聖書日課を使って心の糧を欠かさないようにしましょう。そのために最低でも15分間を神との交わりのために聖別してください。

朝にどうしても時間のとれない方は、昼休みでも就寝前でもかまいません。ぜひ、実行してください。

【祈りの時の持ち方(例)】

- ①まず黙想し、次に、自分の心を神に向けるために賛美する。賛美曲を歌えない場合は、歌詞を味わう。
- ②御言葉を読み、自分へのメッセージが何かをさぐる。例えば、神の恵み、告白すべき罪、従うべき命令、ならうべき模範など。
- ③自分が神のメッセージにどうこたえるのかを祈る。感謝や信頼の表明、悔い改め、服従、献身など。
- ④自分の祈りだけでなく、できるだけ「祈禱課題」も祈る。

【月曜日】 ◆今週のすべての集会在祝福され、救いにつながるように祈りましょう。

出エジプト記第26章30節「このように、あなたが山で示された設計に従って幕屋を建てなさい。」◆幕屋の構造と資材について主から示されたことを記している。だが、ここは荒野であり、エジプト人からいろいろもってきていただろうが、それにしても、このような条件の建築が可能だったのかと思う。げんに実在しなかったと断定する学者もいる。しかし、信仰とは、不可能と思われることが可能となることである。すべての出来事が人間の知恵で理解などできない。主は荒野ですべてのものを与えられたはずである。そうでなければ、主はご命令なされない。

●賛美 / 339 ●祈禱課題

- ◆昨日、礼拝に集えなかった人が恵みからもれないように。
- ◆この教会も世界宣教の一拠点であることを自覚し、重荷を持って祈れるように。特に共産圏、イスラム圏伝道が進むように。迫害にある宣教師のために。現地語聖書の翻訳が進むように。異端からの救出が進むように。台湾活水泉の活動のために。

【火曜日】 ◆教会のビジョンのため、将来の働きが祝福されるように祈りましょう。

出エジプト記第27章20節「純粋な油を、あなたのところへ持って来させなさい。灯を絶えずともすためである。」◆オリンピックでは必ず聖火リレーがある。聞いた話だが東京オリンピックの聖火をこっそりとうつして燃やし続けている人がいるらしい。ともし続けることは大変だと思う。神の前に灯を燃やし続けることは、決してやさしいことではない。信仰は「絶えず」ということに大きな意味がある。神の愛を知りながら、それに応えて生きるべき私たちの救いの火が、消えるようなことになってはならない。一端ついた火を、純粋な信仰で保ち続けようではないか。

●賛美 / 340 ●祈禱課題

- ◆日本福音同盟、日本福音連盟、聖化交友会、キリスト教各出版社、EHC、ケズィック、太平洋放送協会、F E B C、キリスト者学生会、日本国際飢餓対策機構、ワールド・ビジョン、いのちの水計画、総動員伝道、Hi-b.a.、日本国際ギデオン協会(聖書配布)、新生宣教団等の働きとスタッフのため。

【水曜日】 ◆宣教福祉事業が祝福されるように祈りましょう。

出エジプト記第28章4節「祭司として私に仕えるための祭服を作る。」◆祭司の式服について書かれてある章である。カトリックやロシア正教などのきらびやかな祭服をご覧になったことがあると思う。いつも疑問に思うのだが、装いだけが重視され、中身は死んでしまっていては、主客転倒である。「神に仕えるため」の装いにはそれぞれ意味がある。つまり、私たちの神の前に出る姿勢が乱れず、また、全き信仰を持って、さらにはしっかりと御言葉を聞き、神を心から賛美し、熱心に祈るために準備されているかどうか問われているのである。

●賛美 / 341 ●祈禱課題

- ◆新会堂が与えられるように祈りましょう。①バス通りに面した場所に良い土地が与えられるように②十分な資金が与えられるように③早期に建てられるように
- ◆宗教法人を取得できるように
- ◆伝道の拠点が祝福され、用いられるように。(まきば、小山宮下事務所、向陽町)

【木曜日】◆弱っている方々、病にある方々のために祈りましょう。

出エジプト記第29章45節「私はイスラエルの人々のうちに住み、彼らの神となる。」◆神はこの幕屋を通し、神と人がつながる道をお与えくださった。聖なる装いをした祭司が毎日犠牲をささげ、またとりなしをすることで、罪を赦されるとみなしてくださったのだが、この重要さがわからない時代には、恵みを失った。だから神は、私たちを愛する熱心をもって、私たちの汚れた心のうちに住んで神となるインマヌエルとして主イエスをこの地上に送り、すべての儀式を主イエスの到来によって完全なものとしたのだ（ヘブライ 10:1～）。

●賛美／342 ●祈禱課題
◆教会学校の成長と救い、青年の結婚、教会員の信仰の成長と家族の救いのため。
◆教会ビジョンのため（社会宣教事業、伝道所の開設、保養施設建設、会堂建築、納骨堂、宗教法人格取得、学生寮、高齢者住宅）、教会員から伝道者や献身者が与えられるよう、教会会計の祝福

【金曜日】◆礼拝出席平均が50名以上となり、受洗者が年間3名以上与えられるように祈りましょう。

出エジプト記第30章10節「年に一度、そのために贖いをしなければならぬ。祭壇は主の最も聖なるものである。」◆大贖罪日と言われている、最も重要な儀式のことに触れている。詳しくはレビ記23章26～31節などにあるが、この日だけ、大祭司は至聖所に入ることができた。神の民の罪の赦しを願うためである。毎月ささげる犠牲だけではつぐなえない罪をもっているのだということを思い返させるためでもあった。主は私たちが大祭司として、完全なあがないをなして下さっている。主をあがめよう。

●賛美／343 ●祈禱課題
◆この教会に聖霊の著しい働きがもたらされ、リバイバルが起こるように。常に新来会者が与えられ、求道者、受洗希望者がもたらされて、教勢が祝福されるように。
◆土屋牧師、淳子師（牧師一家）、思乃扶師、石出師の働きのために。
◆老齢の方、病の中にある方々のいやしのために。

【土曜日】◆聖日に備え、健康が保たれ、出席しやすい天候が与えられるように祈りましょう。

出エジプト記第31章14節「あなたがたは安息日を守らなければならぬ。それは、あなたがたにとって聖なるものである。」◆その昔、日本も休日は定まっていなかった。神は人間を造られた方だからこそ、7日のサイクルを与え、その1日を安息日として定められた。現在、1週間、7日がほぼ世界中で採用されているのは理にかなっていると認められているからだ。健康的にも重要だが、何よりも神を思うこと、神が私たちにしてくださったことを思い返すことがこの日の目的である。安息日を守らなければ生活そのものの意味を失ってしまうはずだ。

●賛美／344 ●祈禱課題
◆子どもを含め、すべての人が礼拝を守れるように。あらゆる集会が祝福され、参加者が御言葉によって取り扱われるように。奉仕者が恵まれてご用にあたれるように。
◆ホームページが用いられるように。また礼拝動画が用いられるように。教会から出している週報や印刷物が用いられるように。

【日曜日】◆新来会者が起こされるように祈りましょう。

出エジプト記第32章1節「さあ、私たちに先立って進む神々を私たちのために造ってください。」◆民たちは神がエジプトから逃れさせてくださり、紅海を2つに分けて道を造らせ、昼は雲の柱、夜は火の柱を建てて導いてくださったことを忘れ、モーセの帰りが遅いことに我慢できず、「先立っていく神を造ってくれ」とアロンに迫った。モーセの必死の祈りによって滅びからまぬかれたものの、何という民の態度であったらうか。神の恵みがあふれていることを感じようではないか。あなたは恵み深い神、愛に満ちた神を遠ざけてはならない。

●賛美／345 ●祈禱課題
◆この教会に連なるすべての方々が聖日礼拝を厳守できるように。聖書通読を続けられるように。御言葉を味わえるように。祈りに励めるように。ささげる恵みにあずかれるように。積極的に神さまから受けた恵みを語れるように。
◆受験生、就職活動者、試練にある者のために。



おやこでせいしよ

●きょうのせいしよ

【しとげんこうろく 17:10~15】

「せいしよをしらべる」

(ヨハネ 20:30~31)

パウロとシラスが、イエスさまの ふくいんをおおくのひとたちにつたえるためにアジアといわれていた ばしよを まわり、さらに「マケドニアにきてわたしたちを たすけてください」との まぼろしをみていまのギリシアにまですすんで、いろいろなまちをめぐっていました。

ベレアという まちでのことです。そこにいたひとたちはパウロたちのはなしをねっしんにみみをかたむけてきいているだけではなく、そのとおりがどうかまいにちせいしよをしらべかくにんしていたのだそうです。パウロたちもそのたいどにかんしんしました。それだからこそ、それらの おおくのひとたちがしんこうをもったのでしょうか。

せいしよをよむことはとてもたいせつです。まず だいいちにせいしよはかみさまの

わたしたちに あたえてくださった やくそくのことばだからです。

どんな やくそくが かかれているのでしょうか。かみさまがわたしたちを あいして下ささていること、わたしたちにつみがあってもそれを きよめ、すくってくださること、そしてわたしたちが ただしく まっすぐにいきるためにひつような しんり、いのちへのみちがしるされていて、それをしんじるならば、わたしたちに かかれてあることが じつげんすることが かかれてあるのです。

だから、ベレアのひとたちのように、せいしよをよめばよむほど、かみさまのわたしたちに あたえられた すばらしい やくそくが わかり、よろこぶことができるのです。

ヨハネも ふくいんしよにかいていますが、せいしよが かかれたのは、イエスさまがすくいぬしであることをしり、イエスさまをしんじることで、わたしたちが えいえんのいのちをえるためなのです。みんなもせいしよをよみましょう。

●かんがえてみよう

☆せいしよは どんな もくてきで かかれたのでしょうか。(ヨハネ20:31)

☆ベレアのひとたちは みことばにたいして どのような きもちでいましたか。(しとげんこうろく17:11)

☆せいしよを よんだひとたちは どうなっていましたか。(しとげんこうろく17:12)



なみむ聖書

もじ独

あいているマスに、右の9文字のどれかを入れます。タテ列（9列あります）、ヨコ列（9列あります）、太線で囲まれた3×3のブロック（それぞれ9マスあるブロックが9つあります）のどれにも9文字のいずれかがはいりませんが、文字が重なってはいけません。数独と同じ要領です。

みことばをうけいれ

			み	と	ば	れ		う
			れ			い	を	と
と			い	こ	を	み		ば
		と				ば	う	を
			け	ば	い			こ
ば			う	を	と	け		
		み	を	い	こ	う	ば	け
う	ば					け	こ	い
こ	い	け	ば	う				と

ことばあそび

今週の聖書箇所の中に出てくる言葉です。それぞれを並び替えると意味が通る言葉になります。答えてください。

- ① じょうしんにねっひ
- ② かばとこのみ
- ③ しょせい
- ④ ふきんじ

まちがいさがし

3つあるよ!さがしてね





牧師の 聖書 ななめ読み

「春到来」

とにかく異常気象を肌で感じるようになってきました。一日で気温の差が20度近くもあつたりして、三寒四温どころではありません。ただ、あわただしいような気象状況でも、だんだん暖かくなってきているのは確かです。去年は秋はあったのだろうかと思われのような「秋」でしたが、この春も同様、「春はあったのだろうか」と思うような春になってしまうかもしれません。地方によってはもう夏日を記録しているところがありますし、実際にダウンを着て

外に出たのに、帰りは半袖で帰ってくるような日がありました。

気候で春を感じられないのですが、春到来を表す言葉はいろいろ残っていて、その言葉から、春が来たことを「想像する」しかない、そんなことにならないでほしいとは思っています。

たとえば「球春」なんて、使われているでしょうか。野球のシーズンが始まる春の時期を指す言葉です。日本、また最近ではアメリカからもニュースが届きますが、プロ野球のキャンプが始まるタイミングやオープン戦がこそこで開催されると季語的には「球春到来」となります。

日本は四季の移り変わりが美しい国です。それを失いたくないものです。

聖書ふれあい街歩き

●エフェソ 2

パウロがエフェソに書き送った手紙は、エフェソ教会の信徒にではなく、エフェソの周辺地域にあった教会群に所属する信徒に宛てていたと言われています。エフェソにあった教会は多くの信徒が集っていたと思われませんが、センター教会としても用いられ、エフェソに近い町からも信徒が出入りしており、その信徒たちもそれぞれの町で集会を持っていたのです。ですから、非常に重要な宣教拠点でもあったわけです。そこでパウロは最も信頼している弟子の一人、テモテを自分の代行者としてエフェソに赴任させました。ただ、さすがに若いテモテには大変だったようで、パウロも心配して手紙を送り、アドバイスしています。(テモテ 1:3 など)

実はこのエフェソには当のヨハネも関わっていたとの伝承があります。ヨハネは主イエスからじかに言われたことがきっかけで、母マリアの世話を最後までしていたとされています(ヨハネ 19:26 ~ 27)。その伝承を真実に近づけたのが、ドイツ人修道女の夢でした。生涯寝たきりだったのに、マリアの晩年の住居を詳細に描写、その記述をもとに 1891年にエフェソの山中で家の遺跡を発見したのです。果たして本当なのか。今では巡礼地とされています。

ななめ聖書 先週のこたえ

し	ず	こ	か	き	の	る	ら	せ
ら	き	せ	ず	る	し	か	こ	の
の	か	る	せ	こ	ら	し	き	ず
せ	の	し	こ	ず	き	ら	る	か
る	こ	か	の	ら	せ	ず	し	き
き	ら	ず	る	し	か	の	せ	こ
こ	せ	ら	し	か	ず	き	の	る
ず	る	き	ら	の	こ	せ	か	し
か	し	の	き	せ	る	こ	ず	ら

- ①かたられたことば
- ②しゅのしんでん
- ③しょきかん
- ④よやきむ



パウロとテント造り

その後、パウロはアテネを去ってコリントへ行った。

ここで、ポントス州出身のアキラと言うユダヤ人とその妻プリスキラに出会った。クラウディウス帝が、全ユダヤ人をローマから退去させるようにと命令したので、最近イタリアから来たのである。パウロはこの二人を訪ね、自分も同業者であったので、彼らの家に住み込んで、一緒に仕事をした。その職業はテント造りであった。

パウロは安息日ごとに会堂で論じ、ユダヤ人やギリシア人の説得に努めていた。

シラスとテモテがマケドニア州からやって来ると、パウロは御言葉を語ることに専念し、ユダヤ人に対して、メシアはイエスであると力強く証した。

(使徒言行録18:1~5)



ベドウィン(遊牧民)のテント

【パウロはテントを造れたのか】

コリントで出会ったアキラとプリスキラはポントス州出身で、比較的早い時期にイタリアに移住し、テント造りを生業としていたはずです。というのも、主な受注先がローマ軍だったと考えられるからです。

早くにエルサレムに上京し、律法を学んでいたパウロは、いつテント造りの技術を身につけたのでしょうか。それは、パウロの家がテント造りをしていたからに違いありません。そのような環境なら、技術を身につけようとしなくても、幼い頃から「目ならい」といって、見て覚え、また手伝って段取りを知り、様々な会話を通して要領をつかむことができます。

私の家は年末にもちつきをしていました。父はヨット、ボートを作っていた会社に勤めていたのですが、仕事納めの日は、工場の一角でもち米をたきぎをくべてふかし(端材仕事柄はたくさんありました)、朝から晩まで、職人の家族が持ち込んだもち米について、もちにし続けるのです。前日からもち米をといで、水に浸しておくことから始め、家族総動員で準備をし、もちつきをしていたため、自然にもちつきの仕方を自然に覚えしました。パウロもそうだったと思うのです。

パウロの家はディアスポラ、つまり祖国が失われたことで外国に散らばって生きていたユダヤ人です。そこで生きていかなければならないとなった時、現地ではなかなか雇ってもらえないわけですから、自分たちが持っていた技術を生かして生計を立てていくことを考えます。ユダヤ人はもともと荒れ野で生活をしてきた過去があります。そこで伝統的に受け継がれていたのが、テント造り

なので。

この時代、ローマ軍が戦場に行き、または支配地域で駐屯する際、野営をするためテントが必要でした。そこを商機としてとらえたのが、ユダヤ人でした。ローマ人は流浪したことはなく、テント造りの技術を持ち得ません。そこでユダヤ人たちに依頼することになったのです。アキラとプリスキラも、パウロ家と同様だったはず。彼らは、テントを受注しやすいように、ポントスからイタリアに移つり、そして、そこを追われた際には、ギリシアで最も繁栄していたコリントで商売をしようと移住してきていたのです。

【テント造り】

テントは主に羊毛やヤギの毛で作られたフェルト生地や皮革を用いて作られていました。ちなみに、パウロの出身地、タルソスはキリキア布と呼ばれる良質なヤギ毛の布の産地でした。

テントは居住用、また軍隊や移動して交易をする商人の宿泊だけでなく、市場などでのイベントにも使用されていと考えられます。

具体的には、毛を紡いで布を織ったり、皮をなめし、それを縫ったり裁断する作業もあったはずで、注文を受けて作るだけでなく、補修作業もしていたでしょう。ですから、様々な道具が必要で、簡単に始められません。旅をしていたパウロにはそのような用意がないはずですから、アキラたちの工房にパウロが加わったとみるべきです。

この時、パウロには十分な活動資金がなく、誰の支援も受けられませんでした(テサロニケ人2:9、コリント二11:9)。しかし、そこはパウロ、生活費を稼ぐだけでなく、商売を利用し、接客などで地域に入り込み、宣教していたのでした。

キリスト教まるわかり Q&A

◆何もわからないのですが。

必要なものはお貸しし、一つずつお教えいたします。また信仰の強要はいたしません。

◆礼拝とは何ですか。

私たちの悩みは神から離れていることに原因があります。礼拝で神を賛美し、祈り、御言葉を聞くことにより、人間のあるべき姿を取り戻していく、それが礼拝です。

◆献金とは何ですか。

神への献身を表すもので、お布施や聴講料、会費ではありません。本人の意志に任されており、あくまでも自由です。趣旨のわからない方はなさらなくても問題ありません。

◆聖餐式とは何ですか。

信仰告白をし、洗礼(バプテスマ)を受けておられる方のみになりますが、主イエスと共に生きていることを確認する儀式で、聖別された

パンとぶどう液をいただきます。

◆信者になるにはどうしたらいいですか。

自分の意志で主イエスの福音を信じ、洗礼を受けることにより教会員(信者)と呼ばれます。

◆キリスト教会は様々な教派があります。

大きく分けてカトリック教会とプロテスタント教会があります。プロテスタント教会は、設立された時代や地域、歴史的な背景によって成立が異なるため、多くの教派がありますが、憎み合っているのではなく、互いの特色を認め合い、助け合っています。

◆にせのキリスト教会がありますか。

キリスト教の枠組みからずれている教えについて、私たちは異端と呼んでいます。代表的な団体には「エホバの証人」「モルモン教会」「世界平和統一家庭連合」などがあります。特に韓国系キリスト教活動にはお気をつけください。お困りの方は牧師までご相談ください。

2025年教会暦・年間行事

(#はその年によって変動します)

「教会暦」はキリストの生涯をたどりながら1年を過ごすために作られました。当教会では教会暦に、継承されてきた伝統的記念日に加え、守っています。

顕現節(1/6～#3/4)

降誕日(12/25)から12日後に東方の博士がキリストを礼拝した顕現日(1/6)から始まります。降誕されたキリストが世界の救い主であることを覚えて過ごします。顕現節の最終主日は受難の整えをされた変貌のできごとを覚え、変容主日(#3/2)として守ります。

四旬節(#3/5～#4/12)

前年に使用したしゅろの枝を灰にしてかぶり悔い改めを表した儀式(この教会では行いません)、灰の水曜日(#3/5)から始まります。レントとも呼び、主日を除いた復活日前日までの40日間、キリストの受難を覚えて過ごします。

四旬節に続く受難週(#4/13～4/19)は、主イエスの最後の1週間を覚える週で、エルサレム入城に際し、しゅろの枝を用いて歓迎したしゅろの主日(#4/13)から始まり、洗足と主の晩餐が行われた木曜日(#4/17)、十字架にかかれた受難日(#4/18)と過ごしていきます。

復活節(#4/20～#6/7)

キリストが死にかけて復活されたことを祝うイースター(復活日・#4/20)から始まります。春分の日後の最初の満月の次に来る日曜日と定められているので、祝日が毎年変動します。40日後のキリストの昇天(#5/29)を迎えたのち、復活節の最終主日(昇天主日#6/1)となります。

聖霊降臨節(#6/8～#11/29)

復活日から50日目、聖霊が使徒たちに降ったことを記念する聖霊降臨日(ペンテコステ・#6/8)から始

まり、三位一体主日(#6/15)では父、御子、御霊の働きを告白し、過ごします。最も長い節期となります。

待降節(#11/30～12/24)

救い主キリストの誕生を祝う備えをしながら、待ち望むアドベント(待降節)は、11月30日に一番近い主日から始まります。降誕を祝うクリスマスは12月25日ですが、クリスマス礼拝(#12/21)は、25日以前の日曜日を選んでをささげています。

降誕節(12/25～1/5)

イエス・キリストの誕生を祝う日(12/25)から始まり、顕現日前日までの期間を指します。

【記念日】

母の日(5/11・5月第二)
ウェスレー回心記念日(5/24・1738年)
花の日(子どもの日・6/8・6月第二)
父の日(6/15・6月第三)
ホーリネス弾圧記念日(6/26・1942年)
宗教改革記念日(10/31・1517年)
収穫感謝日(11/23・11月第四)

【当教会行事】

新年元旦礼拝(1月1日・水)
成人祝福礼拝(#1/14・1月第二)
聖書愛読週間(#3/23～29)
みふみの日(3月23日)
教会創立記念礼拝(3月最終主日/創立記念日3/27)
最後の晩餐集会(#4月17日夕)
召天者合同記念礼拝(#6/1・6月第二*今年は第一)
弾圧記念礼拝(#6月22日・26日前後の主日)
石出忠師記念礼拝(#7月6日・7月第一)
敬老祝福礼拝(#9/14・9月第三)
子ども祝福礼拝(#11/2・11月第一)
クリスマスイブ礼拝(12月24日夕・水)

教会紹介

●歴史

私たちの教会は、ジョン・ウェスレーを源流とするメソジスト(青山学院、東北学院など)の信仰を継承しており、メソジストの教職であった中田重治が1901年に創立したホーリネス教会の信仰を受け継いでいます。2022年3月27日に創立いたしました。

●教義

旧新約聖書66巻を誤りない神の言と信じ、唯一の正典として信仰生活の規範にしています。また三位一体の神を信じ、イエス・キリストによる以外に救いがないことを告白しています。特色は、下記に紹介する四重の福音を強調していることです。

【四重の福音】

四重の福音は、長老教会の牧師A. B. シンプソンが提唱したものを、ホーリネス教会の創設者中田重治が自らの信仰に基づいた理解を加え、福音宣教の際に掲げた教えです。

人間の幸せは神と共に生きることで実現するのですが、神を認めず生きているため、むなしく日を過ごしているのが現実です。しかし、イエス・キリストが十字架によって神と人との絆を回復してくださったのです。これが福音です。この福音を信じることで、人間は本来もっていた真の幸いを覚えながら、充実した人生を送れるのです。

中田は、聖書に書かれてあるこの福音をわかりやすく語るべく、前述の提唱にある新生、聖化、神癒(しんゆ)、再臨(さいりん)の4項目に基づいて、以下のようにまとめました。

◆**新生** キリストの十字架と復活を信じ、新しく生まれ変わる。これにより、天に住まう者のように、日々喜びが与えられる。(コリントの信徒への手紙 2:5:17 など)

◆**聖化** 神に属する者であるとの自覚が与えられたことで、自己中心に生きていた心が砕かれ、同時に神中心の生活を求め始め、神のきよさに近づくこと。(ガラテヤの信徒への手紙 2:19 ~ 20 など)

◆**神癒(しんゆ)** 肉体を持っているがゆえに弱る私たちが、神のあわれみにより、病い、そして死の恐怖にも打ち勝つ力が与えられ、苦しみから解放されること。(出エジプト記 15:26 など)

◆**再臨(栄化)** キリストが再び地上に来られること。その時、死んだ聖徒たちは復活し、生ける信徒は死を経験せずに天に挙げられる。(コリントの信徒への手紙 1:5:51 など)

教会の信条

さがみはら 相模原ホーリネス教会は以下を信条として掲げています。

わたし 私たちはイエス・キリストを救い主として信じています。

主イエスは、「神の国は近づいた。悔い改めて福音を信ぜよ」と宣言されてから約3年間、人々にその教えとみわざを通して神の国の恵みを明らかにされ、そののち、私たちの罪を負って、十字架にかかれ、あがないを成し遂げ、神の国にはいる救いの道を開かれました。

この主イエスの救いへの招きに応じて神の国に属して生きる者となった私たちは、聖書が終末と示しているこの時代に、使命を全うすべく、「あなたこそ生ける神の子キリストです」と信仰告白をした者たちと共に、神の国の鍵を与えられた教会の一員とされたことを覚えながら、聖霊の助けによって以下のことを宣証しつつ歩みます。

- ①キリストによる完全な救い
- ②真心からささげる礼拝
- ③キリストをかしらとした教会の交わり
- ④神の憐れみによるいやしと慰め
- ⑤信仰生活がもたらす祝福
- ⑥世界にも目を向けたとりなしの祈り
- ⑦神の愛に基づく社会への貢献

MEMO

単立 相模原ホーリネス教会

創立 2022年3月27日

主任牧師 土屋 和彦 牧師 石出 佳代子 牧師 土屋 淳子

252-0205 相模原市中央区小山 3-31-3

TEL&FAX 042(772)8910 e-mail church@bethels.info

ホームページ <http://www.bethels.info/>

